事例No.	2916
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	北海道森町

事例区分	DX

タグ	・ICT ・消防・防災 ・事務の共同実施

事例種類	ICT

事例内容・タイトル

北海道内のひぐま出没情報をタイムリーかつ地図上にマッピング・共有：北海道森町のひぐまっぷ

出典

活力ある地域社会の実現に向けた情報通信基盤と利活用の在り方に関する懇談会（第1回）

(4) データ連携による付加価値の付与

○ 北海道内のひぐま出没情報をタイムリーかつ地図上にマッピング・共有：北海道森町のひぐまっぷ

地域課題・背景

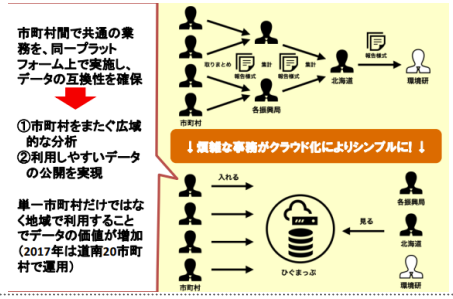
森町ではひぐま出没時の情報制度・情報連携に課題を抱えていた

- ひぐま出没情報の研究データの制度が低い・即時性がない
- 出没発券から報告までの処理工数が多い、紙やデータ等の多重管理問題

サービス内容

概要

- ひぐまの出没情報を地図上で共有できるネットサービス「ひぐまっぷ」を提供
- クラウド入力システムによってすぐに情報取得が可能
- 市町村ウェブサイトへひぐまっぷ埋め込みが可能
- 市町村間で共通の業務を同一プラットフォーム上で実施し、データの互換性を確保。出没状況も横断的に共有・分析可能



サービス提供者 北海道立総合研究機構環境化学研究センター、だっぴスタジオ等

検討フェーズ 導入済み (2017年より)北海道森町含む、道南20市町村で利用

導入にあたって工夫した点

- ICT研究者や市町村担当者からのニーズのヒアリング
  - 道総研や市町村のヒグマ担当者からの"声"を基に、住民向けから研究者・市町村担当向けのサービスにアップデート
- 町内の反発や抵抗を回避するための根回し・調整
  - 新しいことの挑戦が上司から反対される可能性が高い中で、敢えて担当者に秘密裏に利用してもらい、既成事実化を図った
- 開発(民)・知見提供(学)・金策(官)といった関係者の役割の明確化
  - だっぴスタジオはシステム開発、森町は補助金の準備、道総研はエビデンスなどの提供を担当し、推進
- 利用する市区町村を増やすことで効果を拡大
  - 森町だけでの利用ではなく、利用する市区町村を増やすことで、導入の効果を増加

【出典】総務省 ICT地域活性化ポータル「ひぐまっぷ：ICTを活用したヒグマ出没情報収集と共有の取り組み」（ https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/local_support/ict/jirei/2017_087.html ）を基に作成